



# 子育ての知恵袋

## 「ことば遊び ～口遊びをしよう～②」

今回は、「舌を使う体操や遊び」をご紹介します

### ☆舌を使う体操や遊び

- ・なめる（ジャムなめゲーム、アイスなど）
- ・左右・上下に動かす
- ・頬を舌で内側から押す
- ・舌を鳴らす



ジャムなめゲーム:唇の上下左右、上前歯にジャムをつけ、舌の先でなめとります。

アイスや棒付きキャンデーをなめる時は、お菓子を動かさずに、舌を上下に動かすようにしてなめましょう!

\*発音時に不自然な力が舌に入ると、うまく音をつくれなことがあります。

体操や遊びの中で、リラックスした舌（脱力したホットケーキのような舌）もつくれるようにしましょう。

## ～ことのはを考える～

### 子どもへの働きかけ

前号で書かせていただいた、意識して減らしたい言動（禁止、制止、拒否、放置など）は、誰しも分かっている事ですよね。言わないで済むならこんな楽な事はありません。言っている大人も疲れるのですから。

では、それとは逆の言葉が有効になるのかを考えてみたいと思います。

- ・励まし・・・がんばって
- ・褒美・・・これが出来たらゲームを買う
- ・褒める・・・すごいね

色々な考えがあると思います。ただ、言えるのは、子どもを応援するために大人が前面に出ない事、やる気を出させるために大人が何かする事をなるべく減らすという事です。

子ども達がどう受け取っているのか、少し振り切った見方をすれば次のようになるでしょう。

- 励ます（がんばって）・・・期待に応えなければいけないという負荷
- 褒美・・・対価が支払われるのは嫌な事、自分には価値のない事をするという理解
- 褒める・・・評価のために行動を取捨選択する、見られていなければ無意味

じゃあ、どうすればいい？とますますなってきましたよね。

子どもにかけ言葉がなくすわけではありません。具体的に子どもの行動を振り返ってあげる、フィードバックといわれるものです。事実確認に大人の外部評価が加わるとややこしくなるのです。子どもが自分で考える時間を確保してあげる必要があります。

内発的動機が生まれる必要があるからです。

「逆上がりができたね」・・・これは事実です。今日初めて出来た事を見逃さず見てくれた嬉しさと「うん、おうち帰ってからも練習してがんばったもん」と話す子どもは自信に満ち溢れているでしょう。自ら自分は何故できたかを考える。これが次からの取組みに活かされていくのです。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなごます  
事と希望のもてる たからっこを  
応援します!

宝塚市教育委員会 幼児教育センター  
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1  
電話 0797-71-1141(市役所)  
0797-77-2132(直通)  
FAX 0797-71-1891  
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。